

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部二年

参加プログラム: Yale Summer Session

派遣先大学: Yale University

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イエール大学はアメリカのニューヘイブンに位置しており、ニューヨークには電車で二時間ぐらいで、ボストンにはバスで二時間半ぐらいのところ。キャンパスが大きくて、学校の無料バスがあります。ヨーロッパ風の建築はハリウッドの世界に出場する建物と同じ感じで、どこでも勝手に撮影してもポストカードに乗せるぐらいのきれいな写真に仕上げられます。食堂の料理は野菜と果物の種類が豊富で、甘い料理が多いです。

イエール大学は理系より文系のほうが強い印象があり、サマーセッションも文系の方面のコースが多くて、内容から見ても文系のコースのほうが面白そうです。ただし、宿題の量が多くて、毎日図書館で勉強しないと、予習の内容を終わらせるのが難しいです。特に、読む量、書く量が多いです。でも、大体先生の配った資料の粗筋を把握するぐらいでいいです。授業中に読んだ資料の内容をふれながら、それぞれの意見を述べる形で討論していました。

参加した動機

私はアメリカの大学の教育を体験したかったです。世界各地の人と交流して、友達を作りたいかったです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きが多いように見えますが、順序良く一つ一つ進めば大丈夫です。質問があるとき、イエール大学側の担任の先生に直接メールを送れば、すぐ対応してもらえますので、早めに不明点をメールで聞いたほうがいいかなと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

イエール大学から送っていただく1-20の資料が届いてから、ビザの手続きを始めて十分間に合うと思います。申請の仕方はアメリカ領事館のホームページに載っています。ウェブサイトで様々な情報を入力するのが一番大変なことかもしれません。その後、面接の予約を取るのが難しくないように覚えています。面接の当日に予約した時間より一時間ほど待たせられる可能性があります。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特にしませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード付帯の保険とプログラム付帯の保険で行きました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学期の初め、授業を選んだときに、なるべく期末試験がない授業を選びました。そして、それぞれの先生たちとも自分の状況を述べ、交渉してみました。でも、必修科目に関しては、期末試験に参加できなかったの、追試に参加せざるを得ないです。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

行く直前にイエール大学のオンライン授業を聞いてみました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

枕、ブランケット、シーツと歯ブラシを持って行ったほうがいいです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

私は二つのコースを選びました。一つ目は「Film, Video, and American History」です。授業内容はクラシックで有名な映画を鑑賞することによって、アメリカの歴史を勉強します。でも、イエールは film study が有名らしいので、この授業はアメリカの歴史を勉強するより、映画を鑑賞することに重点が置かれています。同じな歴史を描写する映画の相違点を分析したり、自分の感想を述べたりして、映画監督の特徴を比べたりしました。内容がおもしろかったですが、宿題の量が多かったです。もう一つの授業が「Introduction of Philosophy」です。この授業は完全に学生たちに自由に意見を述べさせる討論の形で行いました。一人のイエールの学生がいつも積極的に自分の意見を発表したことが印象に残りました。この授業の宿題が多くないですが、きちんと指定されたリーディング内容を読まない、授業中の討論に参加しにくいです。

②学習・研究面でのアドバイス

遊び以外のできるだけ多くの時間を学習に使うのをお勧めします。そして、先生たちの office hour に、多くの質問を聞いて、レポートの書き方とか、自分の考えとか気軽に相談したら、どのようなレポートが高く評価されるかがわかり、成績の向上を助けます。また、先生とも仲良くなれます。

③語学面での苦勞・アドバイス等

一つのコースの先生はしゃべる速度が速くて、使用する言葉も難しかったので、聞き取るには大変でした。その時はちゃんと予習しておくことが大切だと思います。授業に出てくる高いレベルの単語は予習の資料に出会う可能性が高いからです。また予習も授業内容の理解を助けます。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学生の寮に泊まりました。私は一人部屋でしたが、ルームメイトがいる人もいました。私の部屋の場所や向きが良かったせいか、エアコンや扇風機がなくても、部屋が涼しくて過ごしやすかったです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

ニューヘイブンの天気はよかったです。日本より涼しくて、外で勉強する人も良く見かけます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

夜の九時以降にキャンパスから出ないほうがいと初日のガイダンスで言われました。キャンパス内や学校の周辺は大学の警備員さんがいつもパトロールしているので、九時以降でもキャンパス内で活動していれば、問題がないです。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券が 15 万円ぐらいで、授業料プラス生活費は 10000ドルで足りる。教科書代は 80ドルぐらいでした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大の 16 万円の奨学金と Friends of UTokyo の 4000ドルの奨学金をいただきました。Friends of UTokyo は東大が配った留学の資料で見つけて、個人で応募しました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末は大学のアレンジした活動に参加したり、友達と旅行したりしました。参加できるイベントと行けるところが多いので、遊びに関する心配がいらぬと思います笑。行く前に遊び計画を立てなくても、そこに行ってから作る友達たちと一緒にポストンとニューヨークに行けます。

私は心理学に関する実験を協力して、20 ドルのお金を稼ぎました。学校内でアルバイトした友達もいました。このように、お金を稼げるチャンスもあります。またできるだけ毎日体育館でワークアウトしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

またイェールの体育館と図書館は本当に設備がよくて、よく利用しないと、後悔するぐらいです。プールを利用するなら、水着を持っていったほうがいいです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

知識を勉強して、多くの友達を作りました。彼らの積極的に勉強する態度やに励まされました。また、アメリカの教育の仕方も少しわかるようになり、本当に学生の勉強や生活をサポートする施設は備わっていると思います。

②参加後の予定

工学部に進学します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

多くの人たちと出会えて、後悔しない体験になると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。